

第8回 武蔵野市図書館運営委員会の主な内容

日 時 平成 25 年 7 月 25 日 (火) 午後 5 時 30 分～8 時 00 分
場 所 武蔵野市立中央図書館 3 階視聴覚ホール
出席委員 伊野啓子 桂まに子 黒沢明子 酒井有紀
船崎 尚 松山 巖 三井一夫 毛利和弘

会議次第

- 1 開会
- 2 図書館長あいさつ
- 3 前回会議要録の確認
- 4 議事

(1) 図書館の運営について

① 平成 24 年度 武蔵野市図書館事業評価 (案) について

事務局から平成 24 年度武蔵野市図書館事業評価 (案) についての説明。前回まで、また今回郵送等でいただいた評価 (A～C の 3 段階) とコメント欄にいただいた意見、質問をまとめたものを配布。今日は評価と委員会からのコメントをまとめる。

○図書館運営に関する項目

・図書館施設・機能の充実

1 公共施設を利用した図書館機能の充実

委員 評価は B と C に分かれています。コメント欄には質問がありますので、事務局から回答をお願いします。

事務局 報告書はまだできていません。検討は進めている段階です。今後は経過と計画を併せた報告書を示したいと思います。

委員 報告書ができていれば A ですが、報告書がないので中間で B としました。

委員 質問事項以外のコメントは特にないようなのでこちらの評価は B とし、コメントはなしとしましょう。

次の利用困難者に対する配本サービスについては B と C に分かれています。

コメント欄にはご意見があります。

委員 B までは達成していると思います。

委員 では B でよろしいですか。

2 既存施設の整備改修

委員 評価は A と B に分かれて、コメントが入っています。

委員 老朽化に対する工事は評価できますが、計画的な工事がどう進んでいるのかわかりません。どのように計画して、順調に進んでいるのか疑問があったのでコメントを書きました。

事務局 スケジュール全体を把握できるような工程表はありませんが、必要なものは概算要求の中で計画的に予算要求し、進めています。

委員 私は A で良いと思います。

委員 では評価はAとして、コメントを加えるということにしましょう。

委員 施設はメンテナンスがとても大変で、費用が掛かることなので計画的に進めて欲しいと思います。

委員 では次の書庫の集密化についてですが、全員Aなので評価はAとします。

3 図書館業務システムの再構築

委員 システムエラーの解消について、評価はAとBに分かれています。コメントも入っていますがいかがですか。

委員 定期的な検証を行った結果、問題が減ったということですね。

委員 計画通り実施して、一定の成果があったと判断して良いですね。

委員 前回の説明でいろいろな検証を行っていることがわかりました

委員 では評価はAとしてコメントを生かしましょう。

業務の効率化については評価がBとCに分かれ、コメント欄に質問があります。事務局から質問について回答をお願いします。

事務局 機械化に伴う人的効率化は、当初考えていたような大きな変化はありません。機械の導入で貸出・返却業務は減少していますが、プレイス開館により本の流通量が膨大に増えたことでの業務や、利用者が増加したことでカウンター業務も増加しています。当初はフロアに出て配架や利用者の対応を予定していましたが、今のところできていません。ただ、一日中は無理でも時間を区切ってそういったことをしたいとは考えています。

委員 私はCとしました。「不十分」となれば、計画の訂正・見直しが必要ですね。

委員 では評価はCとしてコメント欄は生かしましょう。

・安心して利用できる図書館環境の構築

1 利用者の安全を高める施設の充実

委員 みなさんAなので、評価はAとしてコメントはそのまま生かします。

2 個人情報とプライバシーの保護

委員 こちらもみなさんAです。コメントも残します。

3 危機管理体制の構築

委員 各館で災害時にどのくらいの数で対応するのか、だいたい良いので、昼間と夜間では何人の職員が対応できるのか教えてください。

事務局 中央図書館は平日では事務室・カウンター含め正規職員は19名、嘱託職員等は約14名です。書庫や4階での作業が入るので、フロアで誘導できるのは15～16名です。夜間はこの半分で8～9名程度です。

吉祥寺図書館は職員・嘱託等含め昼が10名前後、夜間が6～7名です。

プレイスの図書館部分では、早番・遅番が重なる時間は嘱託26名、職員約6名です。早番は17～18名、遅番は約15名です。また、生涯学習など他の事業では昼が各4名程度、夜間は各2名程度います。

委員 この人数で最悪の状態でどう動けるかについて、マニュアルでは細かな係が決められていますが、固定的な人員配置ができないなどの問題も指摘されています。臨機応変に対応できるようにしてこそ防災訓練の実があると思います。防災訓練の内容を知りたい。大丈夫と言ってもらえれば安心できます。

事務局 事務室はともかく、各フロアは日々担当する職員がかわり、固定できないので、どのフロアでも対応できるように臨んでいます。現在、利用者のいないところでしか訓練を行っていないので、これは今後の課題と考えています。

委員 評価はほとんどの方がAなので、Aでよろしいですか。

次の安全対策マニュアルについては、評価はみなさんBなのでBとします。質問がいくつかありますが、事務局から回答をお願いします。

事務局 東日本大震災に伴い、武蔵野市地域防災計画が大幅に変更となりました。武蔵野市全体の計画の見直しを行い、平成24年度の3月に確定となりました。図書館の危機管理マニュアル改定の準備は24年度から行っていましたが、市の防災計画をふまえて実行性に欠けないようにすべく、市の計画の策定を待って作成したため、予定より遅れました。こちらは今後も必要に応じて改定を行います。

・質の高いサービスを支える体制整備

1 職員の人材育成

委員 評価はAとBに分かれていて、コメント欄に質問があります。

事務局 研修個人シートは基本的に自由記載方式なので職員の意識の数値化は困難です。ただし自己評価としてはA、B、Cの3段階評価をしているので、Aが多ければ職員にとって成果のある研修が多かったと判断できます。また館によって研修回数にばらつきがあるのは、職員数が多い、職員の平均経験年数が多い、データベースや資料の数が多いなどの理由で中央図書館が最も研修が実施しやすい環境にあるためです。分館からも代表者に出席してもらい各館で還元したり、同じ課題を通信教育のような形で回答してもらったり、研修資料を送付するなど対策を行っています。分館職員の人材育成は今後とも重要な課題であると考えています。

2つ目の目標の参加回数は嘱託職員も含みます。1回しか出席していない嘱託職員についてですが、館内整理日が休務日に当たると研修に参加できず回数が少なくなることがあります。参加できなかった場合のフォローとして研修資料を渡していますが、個別に時間を取り研修を行うことは時間的に困難なので実施していません。特にレファレンス研修は毎年実施しているので、全体の意識や知識の向上は図られていると思います。全体の向上に影響を受けて研修に参加できなかった個人も向上するのではないかと考えています。

委員 これをふまえての評価ですが、Aが若干多いので、Aでよろしいですか。

次の研修個人シートについては全員一致でAとします。

2 施設の管理・運営形態

委員 開館時間の延長についても全員Aです。

望ましい運営形態の研究も報告書を作成したのでAでよろしいですね。

3 評価システムの構築

委員 評価はAとB、質問があります。まず質問への回答をお願いします。

事務局 職員の個別の事業評価結果は内部検討なので今のところ外部への公表は考えていません。24年度に実施としていますが、24年度は一部の職員のみで、全体

ではできていません。

委員 そうしますと評価はどうでしょう。

委員 仕組みを作ることができていればAではないでしょうか。

委員 「市民への公表」は今の時点では行わないとして、26年までの目標として「市民への公表実施」というのが残っているのはいかがでしょう。

事務局 運営委員会による評価については図書館ホームページにて公表していきます。個別事業の職員ごとの評価は難しい課題も多いので、内部に留めておく方向です。

委員 では評価はAとします。

○図書館サービスの関する項目

・地域の情報拠点としての情報の蓄積

1 多様な情報資料の蓄積

委員 評価はAとBに分かれています。まず郷土資料についての質問から、事務局からの回答をお願いします。

事務局 郷土資料は購入が不可能な買い替えの概念から外れるものが多いため、買い替えはほとんど行っていません。中央図書館では武蔵野市に関する郷土行政資料は原則永年保存としているので、古いものを廃棄して買い換えるという概念に当てはまりません。分館ではスペースも限られているので、保存年限を区切って新しいものに更新する資料もあります。特に重要な資料と判断するものは、一般や児童などでも受入し、あらかじめ複数冊購入して長期間の利用に耐えられるようにしています。武蔵野市の写真集など、貸出が多く汚れて破損してしまった本で買い替えができるものは必要に応じて買い換えを行っています。ただ、絶版などで買い替えができないものが多いです。

委員 では評価はほとんどの方がAなのでAでよろしいですか。

次のインターネットデータベースについてはAとBで評価が分かれています。コメント欄に質問があります。

事務局 プレイスで利用者向け講座を実施できなかったのは、日程や業務の調整が難しかったためですが、25年度は実施の方向で現在検討しています。

取組結果の利用人数は、オンラインデータベースの利用人数ではなくインターネットパソコンの利用人数です。中央・吉祥寺ではプリントアウトをした場合を除き、どのデータベースを利用したか記録を取ることは困難です。利用人数が全てデータベースを利用したわけではないので、利用促進に力を入れることは必要と考えています。プレイスはシステムが違い、利用データベースの利用人数を把握することが可能なので、利用講座の効果を確認することができると考えています。

また、ナクソスがなぜ利用人数を計測できるかというのは、窓口でIDを配布しているためで、プレイスの館内利用人数と合わせて正確な数字を把握できます。他のデータベースと比べてナクソスは固定ユーザーが付いており、利用が多いデータベースです。近隣の図書館で導入している府中市と比べると、実施館数が多いせいか、若干武蔵野市のほうが利用が多いと思います。

委員 評価はBの方が多いのでBにしましょう。

委員 取組結果欄に「一部データベースのアクセス数を減らし」とありますが、これはどういうことですか。

事務局 アクセスIDの契約数を2から1にし、新しいデータベースを導入しました。

委員 では電子書籍についてですが、評価はAとBでBが多いのでBということでよろしいですか。コメントに中間まとめの作成についてありますが、これはこのまま生かす形にしましょう。

2 市民や地域の蔵書の有効活用と資料のリサイクル

委員 リサイクル事業はみなさんAですのでA、図書交流センターもAなのでAとし、交流センターについてのコメントを入れることでよろしいですね。

・市民や関係機関と連携したサービスの充実

1 市民との協働

委員 こちらは全員Bですので評価はB 宅配サービスについてのコメントはそのまま掲載しましょう。

2 他の図書館施設、行政部局との連携・協力

委員 課題解決テーマ展示についてはどちらもAとします。

3 その他の機関との連携協力

委員 こちらはみなさんAなのでAとします。

4 学校との連携

委員 まず学校連携用図書の選書会議等はAで、コメントを掲載でよろしいですか。次の学校図書館システムとの連携について、報告書には至らなかったということでBとCに評価が分かれています。質問についてはどうでしょう。

事務局 前回お伝えした通り、学校図書館とは違うシステムなので、機械的に繋ぐことは難しい状況です。システムの連携について学校側はあまり熱心ではなく、学校連携貸出の現状としては、図書館で本の選定から全て準備して送付しています。図書館からの貸出数は伸びていますが、学校間での貸出の必要性は感じていないようです。図書館だけでは進めることができない問題なので、システム入替時期などに指導課と話し合いをしていかないと、今の時点では何かできるという状態ではありません。

委員 研究はしていて、報告書がまだであればBだと思います。

委員 現在、学校間でも調べ学習の資料などの貸出をはじめました。これから進んでいくかもしれません。

事務局 今後は図書館も進めて話し合いを行いたいと考えています。

委員 ではBでしょうか。

○図書館サービスに関する項目

・図書館の活用と情報収集の支援

1 貸出・閲覧サービスの利便性の向上

委員 評価はAとBに分かれ、コメントがあります。

委員 アンケート実施したことは素晴らしいですが、取っただけで、取組目標の「利便性の向上」までは至っていないので、Aには届かないと思います。

委員 ではBでよろしいですか。

2 本に親しめる環境の整備

委員 子ども読書活動推進計画についての評価はみなさんAなのでAとします。

委員 「ハンディキャップ持つ子どもたち」という表現が、「武蔵野市の図書館」は「配慮を必要とする子ども」となっています。同じ所が発行するものなので表現の統一を計るべきだと思います。また、「配慮が必要な子ども」という表現が、子どもはみな配慮が必要ではないかと思い、しっくりこないと感じました。

委員 「特に」と入るのではないかと思います。

委員 では評価以外のご意見として、表現の統一をぜひお願いします。

一般向けトピックス展示について、実績数値について質問があります。

事務局 一部数字が抜けていたので資料を訂正します。平成 24 年度実績は中央 4 回、ミニトピックス 3 回、プレイス 7 回、1800 冊です。プレイス機能連携は一般の展示とは別で考えています。

委員 ずいぶん行っているようですので、評価はAでよろしいですね。

次の児童向けテーマ展示について評価は皆さん一致でAとして、コメントにクリスマス以外の展示についてありますがいかがですか。

事務局 クリスマス以外に毎年行っているものは、「子ども読書の日」として本や図書館に関する本、「夏休みの本」として武教研（武蔵野市立小中学校教育研究会）の選んだ課題図書、夏休みの本と並行して「戦争と平和の本」、その他に年 3 回の学校の長期休み前に「ぶっくまーく・しおりちゃん」というテーマごとのお勧めの本を展示しています。好評なものとしては、夏休みの本やクリスマスの本はかなり借りられます。戦争と平和の本は他と比べると貸出は少ないですが、夏なので戦争について考えてもらいたいという思いで実施しています。

委員 ではこれは質問なのでコメント欄はなしとします。

次の児童・ヤングアダルト資料の収集についてはみなさんAですが、質問が出ています。

事務局 子どもの本でベストセラーや昔から読み継がれているもの、アンケートにあるような良書は随時買い替えを行っています。内容的満足度というのはどういうことでしょうか。

委員 リクエストが反映されれば満足度が高くなると思うのですが、ヤングアダルトと児童の読みたい本と図書館の本とのかみ合わせはいかがですか。

事務局 リクエストは全年齢で受け付けています。児童書は名作のダイジェスト版はあまり買わない、漫画の多い本はあまり買わないなど、ある程度図書館で選別し購入しています。中高生向けに購入しても中高生が借りているとは限らず、かつてのYA世代が借りていることもあります。ただ、若者の好きなライトノベルや漫画はよく出ることが分かるので、本を選んでなるべく配慮して購入する努力はしています。

委員 次のヤングアダルトに関する企画展示はAとBに分かれています。質問について事務局からお願いします。

事務局 企画展示の内容については「武蔵野市の図書館」23 ページにあります。

委員 評価はAとBで決めていただきます。

委員 「最低1回」ということと考えBにしました。表現のしかたの問題ですね。

委員 不十分な点や課題も少ないのでAが良いと思います。

3 市民活動機能の充実

委員 評価はAとし、コメント欄にご意見がありますがいかがでしょう。

事務局 平成24年度の団体貸出冊数については、特に非公表等の理由はなく、表記が抜けてしまいました。

委員 今後はこういったところは統一するということをお願いします。

事務局 数字は「武蔵野市の図書館」に公表されているので、こちらを追加します。

○図書館サービスに関する項目

・市民の学びと問題解決の支援

1 レファレンスサービスの充実

委員 こちらは3項目ともみなさんAですので評価はAでよろしいですか。ただしレファレンス向上についての質問がありますがいかがですか。

事務局 ご指摘の通り、所蔵案内や書架案内、いわゆるクイックレファレンスも総数に含めています。もちろん図書館職員には「調べもの支援」が「レファレンス」とする認識はありますが、利用者にはまだまだ浸透していないので、今後も積極的な広報は重要な課題と考えています。

委員 レファレンス件数は「武蔵野市の図書館」によると、総数54,535件中クイックレファレンスは95.3パーセントです。残り5パーセントのレファレンスのために職員が研修をしているということでしょうか。ホームページを見ると即答できないものが多くありますが、先日「キーワードを入れて検索してください」とだけ案内している姿を見て、件数だけを見ると大変そうですが、これもレファレンスに含むのであれば安易な印象を感じました。次回から書き方に工夫をしてはどうでしょう。また、「武蔵野市の図書館」の表記として、「レファレンス」の中に「レファレンス」があるのでわかりにくいので、評価とは別に一考されるとよいと思います。

事務局 言葉の説明が不十分です。次回以降説明を変えていきたいと思っています。研修の意義ですが、クイックレファレンスを短時間で済ませるためには基本的な知識は必要ですし、検索についてもお客様の話からくみ取ってどのような言葉を入れて検索すればよいのか、分類はどこかなどの技術を向上させるための研修が必要です。この5万件すべてがとても簡単なものだと考えていません。

委員 ではその辺も検討していただくということよろしいですか。

次の郷土レファレンス資料についての提案がありますがいかがでしょう。

事務局 7月17日から数日間ホームページの不具合があり、「おしえてむさしの」がトップページに表示されなくなっていました。既にこの不具合は解消され、トップページに「おしえてむさしの」が表示されるように戻っています。

2 学びを支える情報の収集、提供、発信

委員 新聞記事見出しデータベースについては全員AなのでAとします。

契約データベースについてはAとBに半々くらいで評価が分かれています。

事務局 目標部分は若干違いますが、取組結果は6/20ページの再掲になります。こちらの評価を参考に評価をお願いします。

委員 目標にない利用者講座について実施できなかったという記載があるので、これは削除してよいのではないのでしょうか。

事務局 削除します。

委員 それを取ってAになりますね。

パスファインダーについては皆さんの評価のとおりAとします。

3 課題解決の支援

委員 課題解決テーマ展示については皆さんAなのでAとしましょう。

データベース検索講座についてはBとCに分かれています。

事務局 ご質問のデータベース利用人数はインターネットパソコン利用者数となり、利用促進は必要と考えています。ただ、中央・吉祥寺は1台ずつしかなく利用には限界があるので、利用者を増やしたいということではありません。複数台あるプレイスの利用状況を参考に利用促進を図っていきたいと思います。

委員 ご質問はよろしいですか。評価はCとしましょう。

・利用者対象者別の図書館サービスの充実

1 一般利用者向けサービスの充実

委員 課題解決テーマ展示はみなさんAですね。

レファレンス研修A a というのもAでしょうか。Aでよろしいですね。

レファレンス事例集はAでよろしいですね。

次の郷土レファレンス情報資料について、できているかの質問がありますが、こちらはできましたか。できていればAということでしょうか。

事務局 「おしえてむさしの」を職員も活用するレファレンス情報資料として作成しました。

委員 では評価はAということにしましょう。

自動貸出機・返却機・館内OPACなどについてはAとBに分かれています。

コメント欄に「前述のとおり講じた対策が評価の対象」ではないかとありますがいかがですか。

事務局 自動返却機などはアンケートを行う前から使いにくいというご意見はありました。アンケートのご意見も合わせて参考に来年度からのシステム入替の検討の参考としていきたいと思います。

目標の中ではアンケートの実施時期を24年中として考えていましたが、実際はアンケートの実施が25年2月に入ってしまい、アンケートの結果報告をまとめるまでに留まってしまったということになります。

委員 そうしますと評価はBになりますね。

中央図書館・吉祥寺図書館の開館時間の延長については先程もあったとおりAということによろしいですね。

2 児童サービスの充実

委員 まずブックスタート事業についてはみなさんAなのでAとしましょう。

ハンディキャップを持つ子どもへのサービスについては先程と同様に用語を

統一してもらおうということで、評価はAでよろしいですね。

3 ヤングアダルト向けサービスの充実

委員 ヤングアダルトに関する企画展示についてはAとBに分かれています、こちらは先程と同じでAとしましょう。

武蔵野プレイスの青少年活動支援機能との連携についてはみなさんAなのでAとします。

4 シニア利用者に対するサービス

委員 まずシニア世代の生涯学習支援についてはどうでしょう。A・B・Cに分かれています。質問事項についてはいかがでしょう。

事務局 個人的に本の配架などのボランティアをしたい、というようなお申し出はありますが、高齢者施設などの団体の申し出はありません。シニア世代との関わり方というのは具体的には検討段階です。

委員 「報告」がないのであればAの評価は難しいと思います。

委員 研究したけど具体的な取り組みがないのであれば評価はBとしましょう。

次の大活字本の充実について、評価はAが多いようなのでAということではよろしいですか。コメントはそのまま入れることとしましょう。

5 来館、利用困難者に対する利便性向上

委員 視覚障害による活字図書の利用困難者に対するサービスは、みなさんAなのでAとし、コメントも入れましょう。

対象者・内容の見直しについてはAとBに分かれています、目標に「報告書にまとめる」と書かれているのに報告書がないのでBとしましょう。

視覚障害者向け資料の電算システム化はほとんどの方がAなのでAでよろしいですか。また評価できるというコメントも入れておきましょう。

(2) その他

5 閉会